

## 2022 年度小委員会活動成果報告

(2023 年 1 月 25 日作成)

小委員会名	省エネルギー計画評価ツール開発小委員会	主査名：横山 計三 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主査名：近本 智行
設置期間	2021 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>中小規模の建物等を対象に、省エネルギー計画を立案する場合の省エネルギー効果と設備費を計算する省エネルギー評価ツールを開発する。</p> <p>初年度：評価項目を設定し、計算体系を構築する。また、省エネルギー評価ツールを作成し、シンポジウムを開催する。</p> <p>2 年度：中小規模建物に適した省エネルギー計画手法をまとめ、本委員会活動の成果を配布資料にまとめる。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	<p>主査：横山計三 (工学院大学)</p> <p>幹事：岡 建雄 (宇都宮大学名誉教授)、金田久隆 (大林組)</p> <p>委員：海藤俊介 (NTT ファシリティーズ)、森川元樹 (森川設計)、木村博則 (石本建築事務所)、川津行弘 (日本設計)、武田晃成 (東京ガス)、高久香織 (巴コーポレーション)、狩野直樹 (きんでん)、赤嶺嘉彦 (建築研究所)、中島康孝 (建築環境・設備技術情報センター)、岡本 茂 (東畑建築事務所)、佐々木正信 (東京電力エナジーパートナー)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	12 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 80% 当初計画におけるツールは、プロトタイプまでであり、完成までは至らなかった。
委員会活動の問題点 ・課題	<p>1. 評価対象建物の仕様設定に時間がかかった。</p> <p>2. 省エネ効果やコストなどの適切な資料収集に時間がかかった。</p>

## 2022 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>1) SHEEP-HOSPITAL 開発要件を整理した。 省エネ検討ツール SHEEP において建築物省エネ法に対応するとともに、建物の ZEB 化への対応も行う必要がある。そこで、本ツールがどこまで対応しておくべきか、対応できるかを検討し、システム構築の基本的考え方を確認し、要件書を作成した。項目は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本ツールの特性</li> <li>2. SHEEP-Hospital での対応</li> <li>3. 病院建築における ZEB 化の方針</li> <li>4. データの入力</li> <li>5. 対応する省エネ手法</li> <li>6. 各ゾーンの空調方式の組み合わせと負荷計算</li> <li>7. コスト計算</li> <li>8. ソフトの作成と改定</li> <li>9. その他</li> </ol> <p>2) この要件書に沿って SHEEP-HOSPITAL のエクセルシートを作成した。また、負荷、エネルギー消費量の計算方法、省エネ効果の計算方法、コストの計算方法について資料を検討しながら進めた。</p> <p>3) 計算体系の整理を行っている（継続） SHEEP-Hospital がほぼ完成し、細かい修正を行っているが、同時に計算方法の根拠などの整理を行っている。内容は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建物条件</li> <li>2. 負荷計算手法</li> <li>3. エネルギー計算方法：             <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー量計算方法、省エネ手法と計算方法、根拠資料など</li> <li>・建築、空調設備、電気設備、衛生設備、昇降機設備、太陽光発電</li> </ul> </li> <li>4. コスト</li> <li>5. エネルギーソース             <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気、ガスの一次エネルギー、CO2 原単位、コストなど</li> </ul> </li> </ol> <p>以上</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。